

宇宙人の子ども 樋勝朋巳

ぼっちゃんとお母さんが桜のクッキーを焼いていたら「こんにちは」と、小さな宇宙人の子どもが窓を開けました。

「あら、どうしたの？ さあどうぞ、中に入って」お母さんが優しく言いました。



「桜を見に来たのですが、みつからなくて。どこに行けば桜がありますか」

宇宙人の子どもは、少し不安そうに聞きました。「あら……桜を見にねえ……。うーん、ちよつとまだ早いかね……。もう少し暖かくならないと、桜は咲かないのよねえ」と、お母さんが残念そうに言いました。

「やつぱりそうか……。ぼくのお母さんもそう言ってた。でも待ちきれなくて、見にきちゃった」

宇宙人の子どもはがっかり。

「あら、あら。そうだったのね。早く桜見たいよね」とお母さん。

「じゃあ一緒に桜のクッキーを作ろうよ」と、ぼっちゃんが言いました。

「なんだか、とつてもいい匂いがする」そう言いながら、宇宙人の子どもは目をつぶって、鼻をクンクンとさせました。

「今ちょうど桜の形のクッキーを焼いているの。焼き上がったら、一回冷まして、イチゴのチョコレートを塗って、桜の花びらみたいに作るの」とぼっちゃんが言うので、宇宙人の子どもは嬉しそうに、目をキラキラさせました。そうして、みんなで桜のクッキーを作ることになりました。焼き上がった桜の形のクッキーに、イチゴ味のピンクのチョコレートを塗っていきます。ピンク色の花びらが、



テーブルいっぱいに広がっているよう。みんなで作った桜クッキーの完成です。

「うわあ！

桜の花だ！」

宇宙人のこ

もは大喜び。

「お花見みた

いだね！」と

ぼっちゃん。

温かいミルク

ティーを淹れて、みんなで桜のクッキーを食べました。

「うわあ、サクサクして、甘くておいしい」宇宙人の子どもは、びっくりしました。

「いつもはどんなおやつを食べているの？」とぼっちゃんが聞くと、宇宙人の子どもはリュックから、おやつが入った袋を取り出しました。

「これが一番好きなおやつ」そう言うと、丸くて、カラフルで、やわらかそうなものを見せてくれました。

「クニヤクニヤっていうお菓子なんだよ。宇宙人のこ

もはみんなこれが大好き」

そう言って、「クニヤクニヤ」を食べさせてくれました。

クニヤクニヤは、小さなお餅みたいな感じで、甘くはない。

「カレーみたいな味がする」とぼっちゃん。

「そうね、スパイスが効いていて、いいお味」とお母さん。

宇宙人の子どもは嬉しそう。みんなで楽しい時間を過ご

しました。

「そろそろ帰らなくちゃ」宇宙人の子どもは寂しそうに

言いました。

「じゃあ、クッキーをお土産に持って行ってね」

そう言ってお母さんが桜のクッキーを包みます。

「ありがとうございます。桜が咲いたらまた来ます。ご

ちそうさまでした」

宇宙人の子どもは、ぼっちゃんとお母さんと握手をして、

帰って行きました。

宇宙人の子どもが帰ったら、ぼっちゃんは急に寂しい

気持ちになりました。

「こんどは宇宙人のお母さんも一緒に来るかなあ」とぼっ

ちゃんが言うので、

「宇宙人のお母さんも、お友達も、おばあちゃんも、お

じいちゃんも、猫ちゃんも、みんなで桜を見に来るんじゃないかな」と、お母さんが言いました。

(おしまい)